

「Let's go 米作り」

本単元で育成する資質・能力

「探究力」「思考力・判断力・表現力」「メタ認知力」
「協働・合意形成意欲」「地域貢献力」「本質を志向する価値観」

※なお、本校では、上記の資質・能力を児童及び教諭間で共有するために、次の名称を用いている。

「自分事の問い追究力」（探究力）、「かんがえ力」（思考力・判断力・表現力）、「ふりかえり力」（メタ認知力）

「みんなと解決したい気持ち」（協働・合意形成意欲）、「引き受ける心」（地域貢献力）するどい目（本質を志向する価値観）

1 単元について

(70時間扱い)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
単元	神石高原町米のおいしさの秘密を探ろう(20時間)			米作りの問題解決のために自分たちの考えたアイデアを提案しよう(30時間)						米の売り上げを伸ばすアイデアを実行しよう(20時間)		

2 児童観

(1) 児童の学習経験や日常の児童の様子から

本学級の児童は、これまで地域の米作り農家の方から、米作りにおける苦労や今困っていることを聞く活動を通して、地域の課題を「引き受ける」ことや、引き受けた課題を「みんなと解決しよう」と協働して取り組むという経験をしてきている。今後は、「お米は作ってもなかなかもうからない」「農家は高齢化が進み、米作りをする若い人が少なくなっている」などの悩みに対して、自分たちなりに、こうやったら少しでもよくなるのではとの提案をしていくことが課題である。

また日常の児童の様子から「小さな意見の違いは大きな違いにつながる」と考えて話し合ったり、全員が納得のいく答えが見つかるまで追究を続けようとしたりすることができ始めていると考える。しかしながら、追究をする上で情報を比較したり分類したりしながら、考えを深めていくという経験はまだ本学級の児童には不足していると考える。

(2) アンケートから

児童の資質・能力及び態度の実態を明らかにするために以下のアンケートを行った。(児童22名)

	資質能力	下位項目	アンケート項目	アンケート結果(人数)			
				とても	やや	あまり	全然
学習方法	スキル	自分事の問い追究力	・授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」「やってみたい」と思います。				
		かんがえ力	・授業では、調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめています。				
自分自身	スキル	ふりかえり力	・学習の振り返りをするときは、「どこまでわかったか」や「学習の方法でうまくいったことや失敗したこと」などの理由を考えています。				
	価値観倫理観	するどい目	・授業では、「たぶんこうではないかな。」「こうすればできるのではないかな。」と考えています。				

他者や社会	意欲態度	みんなと解決したい気持ち	・友達と話し合う時、小さな意見の違いは大きな違いにつながると考えて意見を発表し、お互いが納得のいく考えをつくらうとしています。				
	価値観倫理観	引き受ける心	・困っていたり、悲しんでいたたり、辛そうにしていたりする人がいたら、「どうしたのかな?」「助けてあげたいな。」と思います。				

省略します。

3 単元観

(1) 本学習材のねらいについて

本学習材における「生き方」について

【本質的な問い】米作りを通してもうけを出すにはどうしたらよいか。

本学習材は、米の6次産業化を目指す活動の中で、地域の方の課題を自分事として引き受け、他県や他市町の取組などとも比較しながら最善解を考え、様々な障壁を乗り越えながら、米作りの主課題をどう解決するかを追究しようとする。

学習材の魅力（学習材自体の価値や子どもにとっての魅力、ゲストティーチャーの生き方）

本単元では、昨年度の4年生の課題を引き継ぎ、米づくりの問題をとらえ、それをどう工夫し解決していくかをまとめ発信していく単元である。地域の農家の方やJAで働いている方との交流を通して、神石高原町の米作りの工夫や努力、そしてそのおいしさについて知ったり、地域の方の「未来の神石高原町を自分たちが食を通じて作る」という思いとその実現に向けた悩みについて共に考え、神石高原町の米作りをアピールする方法について考えたりしていくことのできる単元である。自分たちが毎日口にするものであり、神石高原町の主要産業の1つである米作りを取り上げることで、子どもたちが「自分事」として「米作りの秘密を知りたい。」「自分たちの住む神石高原町のお米のおいしさや自然の良さをもっと知ってもらいたい。」という願いをもって活動することができると思う。

地域の産業の米作りと関わり、地域の農家の方たちと関わり、その思いに触れさせることで、「自分たちの食生活の中心をなす米を作り続けるとはどういうことなのか。」という視点で生き方を考えることができる。また、自分たちが調べたり考えたりしたことを地域の人たちに提案するという機会を取り入れることで、表現方法を工夫したより良い表現やアピールの工夫を目指す姿も期待できる。

近年の農家の減少や耕地面積の減少は、神石高原町の産業を守っていくために、解決していかなければならない地域の課題でもある。

自分にできることは何か、問題を見つけ解決を考えることができる意義深い学習材である。

4 指導観

指導にあたっては、以下の工夫を行う。

(1) 自分事の問いの追究(主体的な学びの視点)

児童の学びを自分事にさせるために、米作り農家の方がどのような苦労や工夫をもって米作りに取り組まれているのかを、自分たちも田植えから稲刈りまで体験させてもらうことを通して、知っていく。また、バケツで稲を育てて収穫までを実際に体験することで、米作りの難しさを自分事の課題として追究していけるようにする。

さらに、米をどのように食生活の中でその需要を高めていくのかも、実際に6次産業に従事されている人のお話を聞いたり、一緒に米を使った製品を考案し開発したりすることを通じて、自分事の課題を膨らませていけるようにする。

(2) 学び合い(対話的な学びの視点)

学び合いにおいては、自分事の課題を追究する中で、課題に対する思いをペアやグループ、学級全体で紹介する場面を随時持っていきたい。また、課題追究の進捗を随時交流する中で、友達や他のグループがどのような取組や工夫をしているのかを知り、自分の課題追究の方法を見直す機会を保障していきたい。

さらには、ゲストティーチャー（以下G T）を計画的に招へいしていくことを通して、自分の課題追究のヒントを得られるようにしていき、自分の取り組み方を修正したり、他のグループへのアドバイスも伝えたりしていくようにする。

(3) 深く(深い学びの視点)

深く生き方について考えさせるために、いろいろな課題を持ちながらも米作農家の人たちが決してその解決をあきらめず、他の地域の取組にも学びながら米作りに励んでおられることを直接お聞きすることを通して具体的につかむようにさせていく。

また、お米を使ったお菓子などを開発し商品に創り上げるために、たゆまぬ研究や工夫、努力を積み重ねておられる人との深い交流の中で、自分たちも新しい商品を開発して、米作りでお世話になった亀石の方の役に立ちたいとの思いが抱けるようにしていく。

5 本単元で設定した目標

	観点	目標
学習方法	自分事への問い追究力	米作りをしたり、農家の方から話を聞いたりすることを通して、自分なりの米づくりに対する思いや願いをもち、必要な情報を収集・分析し、課題解決を目指して探究することができる。
	かんがえ力	問題状況に合わせて、比較したり分類したり関連付けたりした考え方を選択できる。
自分自身	ふりかえり力	自分の学び方の成長や学んだ事の自分にとっての意味、学んだことどうしの関わりについて振り返ることができる。
	するどい目	「米作りを通してもうけを出すにはどうすればよいか」という問いや自分の問いに対して、自分なりの「応え」を見付けようとする。
他者や社会	みんなと解決したい気持ち	安易に友達の意見に流されず、相手の発言の関わる場所を見付けて、自分や相手の考えを深めあおうとする。
	引き受ける心	過去の地域の人たちが現代に、そして現代の人たちの思いが未来の自分たちのよりよい生活を願っていることに気付くと共に、抱えられている課題に気付き自分事としての課題として共に悩む。

6 本単元で設定した評価規準

	観点	評価規準
学習方法	自分事への問い追究力	米作りをしたり、農家の方から話を聞いたりすることを通して、自分なりの米づくりに対する思いや願いをもち、必要な情報を収集・分析し、課題解決を目指して探究することができる。
	かんがえ力	問題状況に合わせて、比較したり分類したり関連付けたりした考え方を選択できている。
自分自身	ふりかえり力	自分の学び方の成長や学んだ事の自分にとっての意味、学んだことどうしの関わりについて振り返ることができる。
	するどい目	「米作りでもうけを出すにはどうすればよいか」という問いや自分の問いに対して、自分なりの「応え」を見付けようとしている。
他者や社会	みんなと解決したい気持ち	安易に友達の意見に流されず、相手の発言の関わる場所を見付けて、自分や相手の考えを深めあおうとしている。
	引き受ける心	過去の地域の人たちが現代に、そして現代の人たちの思いが未来の自分たちのよりよい生活を願っていることに気付くと共に、抱えられている課題に気付き、それを自分事として解決しようとしている。

7 指導と評価の計画（全 30 時間）

過程	時	○学習活動・◆内容	評価規準（評価方法）
自分事への問いの追究	1 6	○農家や地域の方から米作りの喜びや苦勞、かかえておられる悩みについて話を聞く。 ◆GTの抱えておられる課題意識を見つける。 ◆米作りであまり儲からないという事実を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">農家の方の思いを聞くと、どうやってお米でもうけを出すかが大きな悩みのようです。私たちもできることを考えていきたいです。</div>	引き受ける心 神石高原町の米作りの現在の状況、農家の方の思いなどを想像することができる。（発言・ノート） 自分事への問い追究力 自分が調べてみたいことをもとに、課題を設定することができる。（発言・ノート）

<p>情報 収集</p> <p>7 12</p>	<p>○自分の課題解決のための調べる内容や方法を考え、友達と協働して追究活動を行う。</p> <p>◆どうすれば米作り農家の抱える課題を解決できるか手掛かりになる情報を集める。</p> <p>◆他県や他地域の取組から学ぶ。※6次産業化の取組。</p> <p>◆実際に稲刈りを体験し、その工夫や苦労について知る。</p> <p>◆米を使ったお菓子作りに挑戦する。</p> <p>広島県でも6次産業に取り組みられているところがあることを知って、神石高原町でも取り組まれそうな気がしてきました。自分たちも協力してお菓子作りに挑戦したいです。</p>	<p>みんなと解決したい気持ち</p> <p>それぞれの課題解決に向けて、友達と協働しながら、意欲的・計画的に追究活動を行うことができている。(発言・ノート)</p>
<p>整理 分析</p> <p>13 16</p>	<p>○追究活動で集めた米を活用した製品の情報を整理・分析し、自分たちにできることを考えまとめる。</p> <p>◆集めた情報を整理・分析し、自分たちの追究や考えの検討や考えの見直しをする。</p> <p>◆中間交流会をもとに、再度、追究活動を行い、自分の考えをまとめる。</p> <p>試作した米粉を使ったお菓子の魅力を、どうやったら地域の農家の人に伝えることができるか考えていきたいです。</p>	<p>かんがえ力</p> <p>集めた情報を整理・分析し、友達のアドバイスをもとに考えを見直しながら表現することができている。(発言・ノート)</p>
<p>まとめ 創造 表現</p> <p>17 22</p>	<p>○神石高原町の米作りの問題を解決するためにはどうすればよいかアイデアを出し合う。※6次産業化について考える。</p> <p>◆友達と協働して伝える工夫を話し合い、自分たちの考えをまとめ、表現する。</p> <p>◆テレビ局の方などを招いた提案会を開く。(本時)</p> <p>3月の米粉を使ったお菓子の試食会&販売会に向けて宣伝の方法がわかってきました。アドバイスをもとにもう一度考えていきます。</p>	<p>かんがえ力</p> <p>米を使った商品の販売会に向けた提案を聞き、自分達のものと比較したり、関連付けたりしながら考えることができている。(発言・ノート)</p>
<p>実行</p> <p>23 28</p>	<p>○農家の人に自分たちのアイデアを伝える。</p> <p>◆提案会でいただいたアドバイスをもとに提案したい内容を見直し、よりよいアピールにまとめる。</p> <p>◆農家の人を呼んで交流会を開く。</p> <p>◆お米を使ったお菓子などの試作品づくりの計画を立てて取り掛かる。</p> <p>◆道の駅で自分たちの考案した試作品を販売する。</p> <p>自分たちの考案したお米を使ったお菓子で、地域の農家の方が喜んでくださったのがうれしいです。これからも工夫していきたいです。</p>	<p>するどい目</p> <p>これからの神石高原町の米作りの方法や具体的な実践について考えることができている。(発言・提案したもの)</p>

ふりか えり 29 30	○自分たちのこれまでの取組をふり返る。 ◆神石高原町のお米の素晴らしさを伝えるにはどうすればよいか、振り返る。 ・農業とりわけ米作りのかかえる問題について、これまで、農家の方からいろいろ聞かせてもらいました。その中で、米を食べる人が減っていることや米を作ってもなかなかもうからないことがわかりました。どうやったら、米を作ってもうけが出るのか真剣に考えてきました。そのなかで考えついたのが、米を使ったお菓子作りです。米をお菓子にすれば、もうかるのではないかということに気付き、そのために、県内で成功している東広島の農業法人の組合長さんや、私たちの地域で米を使ったお菓子を作られている方の協力を得て、米粉菓子づくりに挑戦することができました。そうしたことを通じて、農家の人にもこの方法を提案することができ、とてもうれしいです。	ふりかえり力 自分の学び方の成長や自分にできそうなことについて考えることができている。(発言・ノート)
--	---	---

8 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・自分たちが考えた米商品の販売会を成功させるためには、どのような宣伝をしていけばよいか、アイデアを出し合い練り上げる。

(2) 準備物

- ・これまでに学習したことをまとめたパネル (教師)
- ・宣伝の概要を書いたボード (児童)

(3) 学習の展開

配時	主な発問と児童の反応予想	指導上の留意点 ☆児童への支援	評価規準 (評価方法)
2分	1 これまでの学習をふり返り今日の授業につなげていく。 T:今日の授業ではどのようなことを考えていきますか。 C:これまで自分たちの考えてきた、神石高原町のお米のよいところをどのようにみんなに知らせていくか考えます。 C:それぞれのグループが考えているコマースシャルをみんなに紹介して、ゲストティーチャーの方からアドバイスをもらいます。 C:よいところをもとにして、もっといい宣伝を考えていきます。	・児童の代表からこれまでの学習の概要やこの時間のねらいについて話させる。 ☆これまでの学習の流れが分かるようなものを用意しておき、今日の学習がどのような目的をもっているのかが分かるようにする。	

3分	<p>2 本時の課題を確認する。</p> <p>T：今日の学習課題を確認しましょう。</p>		
15分	<div data-bbox="258 302 1141 398" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>自分たちが考えた米商品の販売会を成功させるために、どのような宣伝をすればよいだろう。</p> </div> <p>T：それでは今日ゲストティーチャーとしてきてくださっている方を紹介してください。</p> <p>C：今日はこの地域のケーブルテレビ局であるケーブルジョイから武田さんに来ていただいています。</p> <p>3 自分たちの考えた宣伝方法を交流する。</p> <p>T：自分たちの考えた宣伝を紹介しましょう。</p> <p>※それぞれのグループが米商品販売会に向けて作っている宣伝の概要をリーダーが発表する。その中でまず1グループを指名し、宣伝の概要を紹介する。その後、良い所や改善点を各グループで話し合っ出て出し合う。</p> <p>C：ぼくたちは、劇で販売会に来てくださるように工夫しています。去年の4年生も考えたビスコッティーを実際に地元の方に教えてもらいながら作ったこともしっかり入れています。</p> <p>C：私たちは、アレルギーのお友達もいるので、卵や乳製品を使わないお菓子を作ったことも宣伝に入れています。これなら安心して食べられると思ったからです。販売会の中心にしたいと思い宣伝に入れました。</p> <p>C：ぼくたちは、紙芝居で販売会に来てくれるように宣伝します。今年初めて挑戦した米粉を使ったカップケーキのことや指導して下さった立原さんのこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが連絡を取ってお呼びしている方を、自分たちがしっかり紹介できるように準備しておく。 ・劇にするなどして、しっかりアピールできるように準備させておく。 ・コマーシャルの流れがわかるものを提示するなどして、それを見ながら発表が聞けるようにする。 <p>☆一人一人の理解状況に応じたかかわり方を練習の段階からサポートし援助しておく。</p>	<div data-bbox="1184 1720 1332 1758" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <p>かんがえ力</p> </div> <p>米を使った商品の販売会に向けた宣伝の提案を聞き、自分達のものと比較したり、関連付けたりし</p>

10分	<p>も宣伝に入れています。</p> <p>4 質問・意見交流タイムをもつ。 C:劇や紙芝居はどんな内容にするのですか。 C:チラシ以外に、どのような宣伝方法があるのですか。新聞やテレビなどはどうでしょうか。 C:米を使ったキャラクターを作ったらどうでしょう。募集してもいいと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宣伝の内容や計画の発表について、質問やもっといいものにするためのアイデアを交流する。 	<p>ながら考えることができている。 (発言・ノート)</p>
10分	<p>5 GTや参観者から感想をいただく。 ・宣伝で注意するのはどんなことか。 ・人に見てもらえる効果的なチラシを作るにはどうすればよいのか。 ・宣伝の時期についてはいつ頃がよいか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・GTからは、今日提案された宣伝方法の良いところや改良する点などを具体的に出してもらえるようにしておく。 	
3分	<p>6 話し合いのふり返しをする。 T:今日の提案のよいところを取り入れてこれからどのような宣伝を作っていくか、ふり返りに書きましょう。 C:それぞれの提案もよく工夫しているなと思いました。何をいちばん伝えたいかをはっきりさせればよいことがよくわかりました。 C:宣伝だから、これを見た人にどんな気持ちになってもらいたいかを考えて、中身をつくれればよいことがわかりました。 C:買って食べた人になるほどやっぱり、神石高原町で作った米を使って作っただけのことはあると感心してくれるお菓子を、これから工夫して作っていかないといけないこともわかりました。何かすてきなことができそうな気がします。がんばりたいです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・提案を通して、自分の考えを強めたこと、友達から聞いて、新しい見方ができるようになったことや、気づいたことについてノートにまとめる。 	
2分	<p>7 ふり返りの発表をし、次時の見通しを持つ。</p>		

(3) 板書計画

<p>◆地域の農家の願いにこたえて（写真パネル）</p>	<p>自分たちが考えた米商品の販売会を成功させるために、どのような宣伝をすればよいだろう。</p>	<p>3月4日（土）道の駅で 販売会</p>	<p>◆六次産業に取り組んでおられるところ（写真パネル）</p>
	<p>・宣伝の概要を表すもの ※グループからの提案パネル</p>	<p>◆学ぶ工夫： ◆改善するところ：</p>	